

フレンズ 第22号

特別養護老人ホーム
短期入所生活介護事業
通所介護事業（4カ所）
認知症対応型通所介護事業(2カ所)

発行日 平成22年2月25日
居宅介護支援事業(2カ所)
地域包括支援センター(2カ所)
(世田谷区委託/介護予防支援事業)

子どもボランティア再発見—地域の子どもは福祉の担い手—

統括施設長 飯田能子

ハイライト

○巻頭言

子どもボランティア再発見
-地域の子どもは福祉の担い手-

○子どもボランティア

「子ども部」が、世田谷区の保育や児童の総合的な支援を担当・管轄する部の名称になってから6年が経過し、当初、ひらがな混じりの言葉遣いに違和感を抱いたものでしたが、テレビに頻繁に登場する「子ども店長」や「子ども司会者」は、今ではすっかり普通名詞のようです。

前号の「熟年ボランティア事始」を受けて、子どもたちの施設訪問を取り上げることにしました。「子どもボランティア」という造語は、広報委員会の発想です。

保育園の園児や小学校の学童は、高齢者とのふれあいを自然な形で受け止めています。多分、かれらの気持には、ボランティアという意識はないでしょう。おじいちゃん、おばあちゃんと孫やひ孫の関係が瞬間的に出来上がるのです。介護を受けているお年寄りから、ふつうのお年寄りになっていくのは、子どもの持っているエネルギーの魔術です。

「子どもボランティア」という新しい言葉を用いることによって、私たちは「子ども」の存在自体が恩寵であり、生きていることの感謝の念を呼び覚ますものであることに気づきます。「駒小の3年という幼子の真摯の瞳に涙誘わる」と詠んだデイ・ホーム上馬の利用者の琴線に触

れたものとは何だったのでしょうか。

前号にも述べましたが、かつての地縁社会では向こう三軒両隣で助け合いながら、地域の子ども、地域の高齢者として、その存在を認め合う生活世界がありました。少子高齢化と核家族化の進展で、高齢者と子どもの共生の場は極端に少なくなっています。デイ・ホームや施設の中に子どもたちの歌や笑顔が溢れ、小さな手と皺の寄った手がふれあうとき、子どもは福祉の担い手としての居場所を地域の中で立派に確保しているのです。

フレンズホームは、おともだち保育園の建て替えによって、平成2年3月に合築施設として建設されました。園庭と1階部分の保育室からは毎日、園児の元気な声が聞こえてきます。構造上、入口が別になっているので、毎日、顔を合わせることはできませんが、お年寄りと園児たちとの交流が日常的にもっと頻繁に実現できるように工夫していきたい、これが新年度に加わったフレンズホームの目標です。

目次:

巻頭言	
子どもボランティア再発見	1
特集	
子どもボランティア	2
各施設の子どものふれあい(いま)を生きる	
入職一年を迎えて	
在宅職員会議	
デイサービス取り組み事業事例発表会	3
保健福祉サービス向上委員会シンポジウム	
連載あんしんすこやか日誌	
あんしんすこやか日誌	
第13回体操の自主グループ	4

子ども達との交流は、お年寄りにとってはいろんな刺激を与えてくれます。子ども今号は「子ども」と「お年寄り」のふれあいをご紹介します。

中学生の職業体験実習 デイホーム三茶

デイ・ホーム三茶では、三軒茶屋保育園や三軒茶屋小学校とのふれあい交流他、区立中学の職業体験実習受け入れを通じて、地域の子ども達と利用者が関わる場を設けています。区立中学二年生の3名の3日間の体験学習では、利用者の方にとって曾孫の世代に当たる中学生の来訪に、自分たちの子どもや孫が10代だった頃の様子を思い出し、生き生きと話をされる方が多く見受けられます。又、普段遠出をされない方などは、学校や周辺の様子はどんな具合か、昔の面影が残っているか、同じ地域に暮らす住民として興味を示される方も多いです。いずれの場合も、興味や関心、記憶の呼び起こしから表情に輝きが戻り、何か話をしてみたい、次の世代に自分たちの経験が何かに役に立てば・・・と積極的な様子が伺えます。



豊富な人生経験を持つ利用者とは、今現在成長過程にある若者。普段なかなか関わる機会のないお互いにとって、「生」の言葉を交わせる場、地域社会に 生きている実感が得られる場として、短いながらも充実した交流の場が持っているとと思います。

(A)

子ども
ふれ

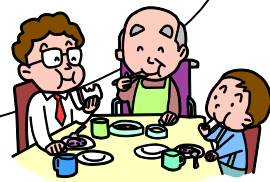
地域の小学校でランチパーティ 上馬あんしんすこやかセンター

2年前、近代的な校舎に生まれ変わった駒沢小学校では、地域や近隣高齢者施設のお年寄りを招待して、児童との交流をはかる昼食会が催されています。1月には陽だまりサロン（民生委員を中心としたボランティアが地域で開く交流会）の皆さんが参加されるというので、あんしんすこやかセンターの職員もご一緒してきました。

カット野菜を使わず国産にこだわったサラダ、スパゲティ、デザートが並び、子どもたちと向かい合っの4人グループで、おしゃべりが弾みました。食べ終わったお

皿を片付けるのは子ども共たちの仕事。今回は盛り付けはボランティアさんでしたが、「次は僕たちがしてあげたい」という声が児童から出ていました。

(N)



入職1年を迎えて

今年入職した職員に話を聞きました。

私がフレンズ奉仕団に入社して、4月で一年になります。一か月の研修期間を経て、フレンズケアセンターに配属となりました。大学の体育学部から新卒で採用され、今まで介護という場に携わったことのない私にとって、職場での日々の経験は新しいことの発見ばかりで、毎日が勉強です。ある時、利用者の方から「あなたがにこにこしているから、私も気持ちが明るくなるよ」と言われました。私はその一言がとても嬉しく、この職業に就けて良かったと思っています。そして何よりも職員同士が助け合い、チームで仕事をしていることが素晴らしいと感じています。先輩方や時には利用者の方に支えられ、現在の私があると思います。感謝の気持ちを忘れず、これから先、日々努力し、成長していきたいです。

地域の保育園園児との交流 **デイホーム上馬**

2月2日節分の前日、上馬保育園の子ども達が豆まきにやってきた。例年、節分には子ども達に豆まきに来てもらっている。子ども達が入ってくるとデイルームの雰囲気が変わる。子ども達のエネルギーがお年寄りの頬をゆるめてしまうようだ。

男性のお年寄りが目を潤ませているのを見ると子どもってすごいなあ、とってしまう。「駒小の3年という幼子の真摯の瞳に涙誘われる」と男性の利用者が、以前詠んで下さった事もあった。子ども達が一生懸命歌ったり、キャーキャー言いながら豆をまく姿は愛らしい。

そんな子どもを前に、認知症のお年寄りも一人の大人として、子どもの腰から出たシャツを直してあげたり、「お父さん、お母さんの言うことをよく聞くのよ」と諭している姿は、普段の“介護を受けるお年寄り”の顔つきとは違って見える。最後は、いつも握手会で、子どもの小さな柔らかい手が、お年寄りの手のしわに力を与え、お年寄りの手は暖かさを伝えている。子どもの手を両手で包み、大切なもの扱うように静かにゆすっている姿は、こういった交流の意味を感じさせてくれる。 (M)



おともだち保育園園児との交流 **フレンズホーム**

フレンズホームでは保育園の園児が歌を披露しに来てくれています。子どもたちの歌声にお年寄りは元気をもらっています。そして最後はみんなと握手をしてお別れです。握手をしている時のお年寄りの笑顔はとてもやさしい笑顔です。



在宅職員会議で取り組み事例を発表

本紙20号で、在宅4事業所の「排泄ケア」の取り組みを特集しましたが、11月の在宅介護部職員会議で、研究発表会をしました。皆、パワーポイントを使うのは初めてでしたが、写真や表、図を駆使して、視覚効果を狙ったわかりやすい発表を行っていました。

「施設長賞」を射止めたのは、デイ・ホーム三茶でした。運動機能のリハビリを行うことで歩行状態を改善し、排泄の自立を回復できた男性の事例でしたが、リハビリの効果が時系列の数値で表わされており、「エビデンス(根拠)」を明確にしたことが評価されました。

「他事業所の取り組みが勉強になった」「またぜひ、別なテーマで交流したい」と、発表者も受講者も共に熱くなった研修でした。(N)



施設長がシンポジストに

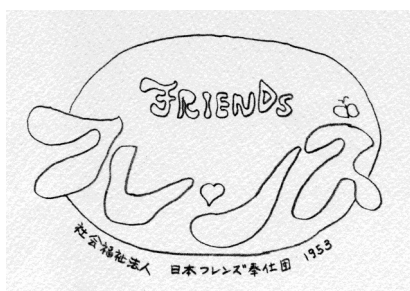
2月2日に開催された「世田谷区保健福祉サービス向上委員会シンポジウム—区民が安心して良質な福祉・介護サービスを利用するために」に、飯田施設長がシンポジストとして出講しました。「自立支援のための介護事故予防検討委員会」は区に報告された介護保険事故報告の検証をもとに報告書がまとめられることに先だって開催されたものです。4法人多職種の協働により、多様な視点から提言がなされたことは意義深いものでした。

飯田施設長からは「介護の仕事は日常生活行為の援助であり、生きる喜びを引き出す仕事だが、日常の反復が介護側の視点に偏ったり、惰性に陥りやすい」という事故を引き起こす背景が指摘され、あらためて「介護の人材育成」の課題が示されました。

(N)



〒154-0002
世田谷区下馬2-21-11
電話 03 (3422) 7211
Fax 03 (3422) 7227
Email info@n-friends.or.jp



であい・ふれあい
地域のささえあい

ホームページもご覧下さい。
<http://www.n-friends.or.jp/>

- 世田谷区下馬2-21-11 Tel 3422-7211(代)
フレンズホーム
フレンズケアセンター・認知症デイ「くつろぎ」
下馬あんしんすこやかセンター
- 世田谷区三軒茶屋2-32-14 Tel 5486-6262
デイ・ホーム三茶
フレンズ三軒茶屋介護保険サービス
- 世田谷区上馬4-36-9 Tel 5430-8050
デイ・ホーム上馬
上馬あんしんすこやかセンター
- 世田谷区野沢3-25-10 Tel 5486-7400
デイ・ホーム中央・認知症デイ「ひだまり」
フレンズ介護保険サービス

編集後記

今号空前のエコカー売り上げに一役買った「こども店長」、そんな時流に乗るわけではありませんが、本号は「こどもボランティア」を特集しました。いろいろな機会にお年寄りを訪ねてくれる幼児や生徒たち。そのふれあいによって魔法のように引き出されるお年寄りの笑顔に出会うたび、私たちは、いのちの連鎖の厳粛な思いに胸を打たれます。こどもボランティアといえば、阪神・淡路大震災を教訓として、兵庫県で始まった体験実習、心の教育「トライやるウィーク」が注目されます。核家族が主流の現代、お年寄りとのふれあいが、子供達にとっても何かを感じる機会になってくれればと願います (N)

=連載= あんしんすこやか日誌<第13回>

体操の自主グループ

あんしんすこやかセンターの事業の一つに、地域の高齢者を対象とした「はつらつ介護予防講座」があります。いつまでも元気で介護が必要とならないためのワンポイント講座と介護予防体操を中心に、区民の方々の交流の場としても活用して頂いています。今年は宣伝や参加者の方のお声掛けにより、たくさんの方に参加していただきました。

それでも「遠くまで行けないけど・・・、スポーツクラブの体操はついていけないけど・・・、でも身近な地域で体操ができるところがほしい!!」という声を多数頂き、介護予防体操を中心とした体操グループを地域にもっと立ち上げたいと考えました。そこで民生委員さんに相談したところ、ご賛同を頂き協力を申し出て下さいました。会場や来て下さる体操の先生を探しました。そして、参加者を募集しました。

体操グループ初日の参加者は8名、スタッフ3名、あんしんすこやかセンター職員2名での船出となりました。初めましての挨拶を照れくさそうに交わす参加者の方々の笑顔が印象的でした。今では月2回の活動日に12~15名の参加者が歌と音読と体操を楽しみながら続けていらっしやいます。

下馬あんしんすこやかセンターでは今年度、4つの自主グループの立ち上げを支援しました。どのグループも体操を中心に活動するグループで、リーダーとスタッフの熱意が形になったものです。今年は体操を始めてみようかな、最近運動不足が気になっているんだけど、とお考えの方がいらっしやいましたら、あんしんすこやかセンターまでご連絡下さい。

(下馬あんしんすこやかセンター T&M)